

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和8年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第1号（4月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401  
南さつま市金峰町大野 2200  
TEL:099-245-1081（代表）  
099-245-1157（直通）  
FAX:099-245-1149



ホームページアドレス：<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>

メールアドレス：[nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp](mailto:nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp)

**農薬の安全使用に努めましょう**

農薬安全使用五つの柱

1. 使用する人の安全 使用者自身の健康管理、安全使用
2. 作物に対する安全 適期、適正防除で薬害防止
3. 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給  
(農薬安全使用基準の遵守)
4. 環境に対する安全 周辺環境への影響防止  
(周辺住民等への危被害防止)  
(河川、湖沼、海等への汚染防止)  
(養蚕、養蜂等への危被害防止)
5. 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

**農薬ラベルを確認しましょう**

**農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう**

令和8年度 病害虫発生予報 第1号

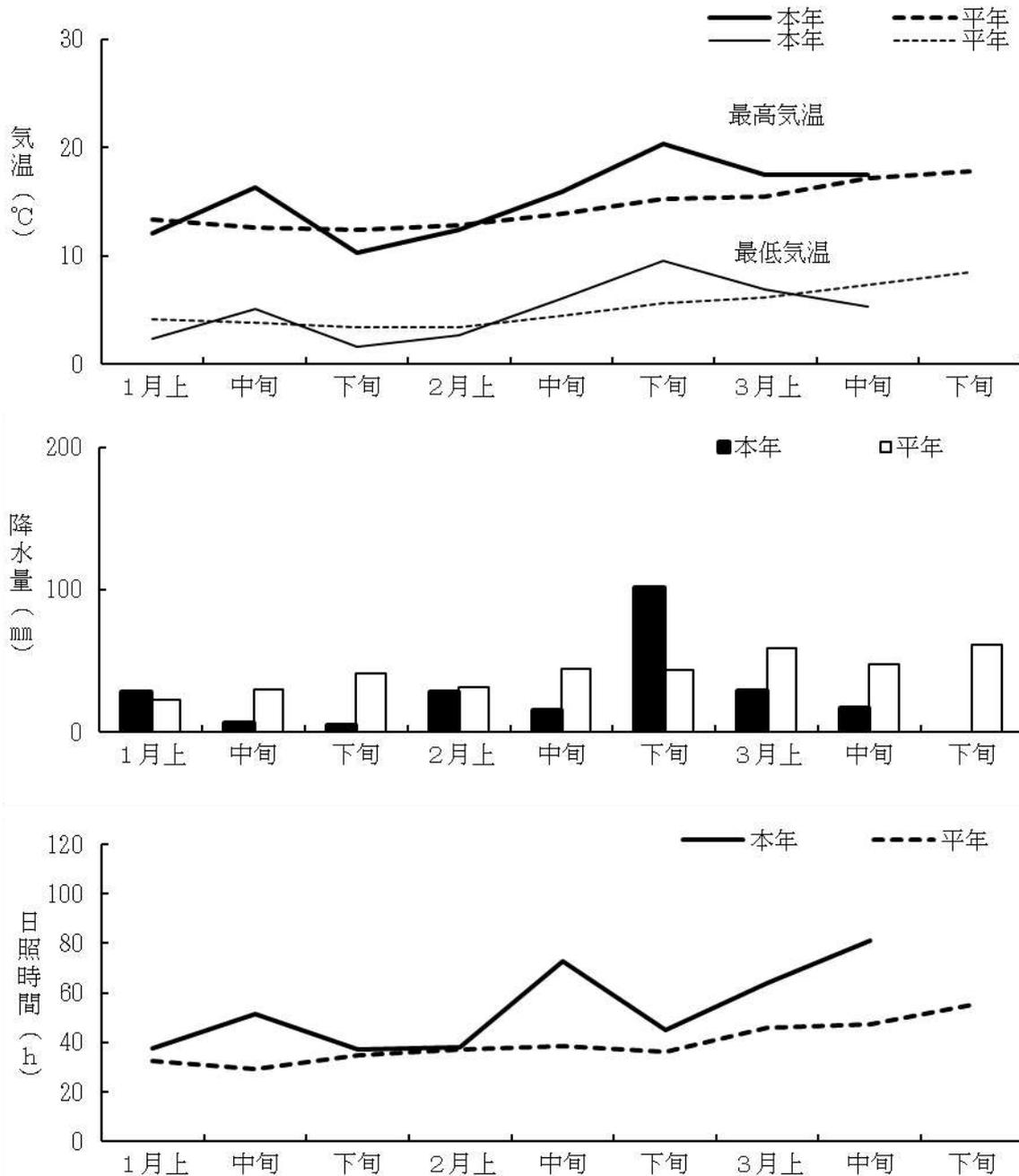
令和8年3月27日  
鹿児島県病害虫防除所

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（3月28日～4月27日） 令和8年3月26日 鹿児島地方気象台 発表

要素	地域	確率 (%)			概要
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	九州南部	10	10	80	九州南部、奄美ともに気温は高く、降水量は九州南部は平年並みか多く、奄美地方は平年並みか少ない。日照時間は九州南部は少なく、奄美地方は平年並みか多い見込み。
	奄美地方	10	20	70	
降水量	九州南部	20	40	40	
	奄美地方	40	40	20	
日照時間	九州南部	50	30	20	
	奄美地方	20	40	40	

II. 1～3月の気象情報（鹿児島地方気象台 観測点：加世田）



【 病 害 虫 発 生 予 報 の 概 要 】

作 物		病 害 虫 名 等	発 生 量	
			現 況	予 報
野           菜	キュウリ	べと病	多	多
		アザミウマ類	少	やや少
		コナジラミ類	少	やや少
	トマト	灰色かび病	やや少	やや少
		うどんこ病	やや多	多
		コナジラミ類	多	多
	ピーマン	斑点病	やや少	並
		うどんこ病	多	多
		アザミウマ類	やや多	多
		アブラムシ類	多	多
	イチゴ	アザミウマ類	並	やや多
		ハダニ類	多	多
エンドウ類	うどんこ病	やや多	多	
	アザミウマ類	多	多	
バレイショ	疫病（県本土）	やや少	並	
花 き	キ ク	ハダニ類（県本土，施設）	やや少	並
		アザミウマ類（県本土，施設）	少	やや少
果     樹	カンキツ	そうか病（県本土・熊本地域）	並	やや多
		〃（奄美地域）	並	並
		かいよう病（県本土・熊本地域）	多	多
		〃（奄美地域）	やや少	やや少
		ミカンハダニ（県本土・熊本地域）	多	多
		〃（奄美地域）	多	多
茶 樹	チャ	チャノコカクモンハマキ	やや少	やや少
		チャハマキ	やや少	やや少
		カンザワハダニ	多	多

## I. 普通作物

### 防除に関する今月の留意事項

#### 1. サツマイモ

##### (1) サツマイモ基腐病

今作の発病リスクを軽減するために、以下の防除対策を徹底する。

##### <育苗床>

- ア 育苗床では、萌芽の確認や育苗管理及び採苗作業で繰り返し出入りするなど、再汚染のリスクが極めて高いため、育苗床専用の長靴や手袋などを使用する。
- イ 萌芽した芽に変色やしおれ症状が見られた場合は、直ちに種いもごと抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。また、萌芽せずに腐敗した種いもも掘り取り、同様に処分する。抜き取り後は、速やかに銅剤を散布する。

##### <採苗>

- ア 基腐病等の感染を抑えるため、地際部から5cm(2~3節)以上の高さの位置で採苗する。
- イ 採苗するハサミの刃先は、こまめにバーナー等で殺菌・消毒する。
- ウ 苗消毒は、採苗後速やかに行う。薬液は、日光や汚れなどで消毒効果が減少するため、使用日ごとに毎回調整する。

##### <ほ場>

- ア 排水不良なほ場では、植付前に耕盤破碎や明きよの設置を行い、ほ場外への排水を促す。
- イ 排水路側の枕畝は表面排水を妨げるため、作らない。枕畝を作った場合は、その途中に排水溝を設置する。また、ほ場外の排水路は、つまりがないか確認する。
- ウ 発病株は見つけ次第除去して、その周辺株には銅剤を散布する。なお、除去あとに補植しても再発する可能性が高いため、補植は避ける。
- エ 苗消毒による感染防止効果が低下する定植3~4週目頃に、予防・殺菌効果のある剤を散布する。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は鹿児島県 ([https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570\\_20240315133011-1.pdf](https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20240315133011-1.pdf)、[https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570\\_20221226173000-1.pdf](https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20221226173000-1.pdf))、農研機構 ([https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/stem\\_blight\\_and\\_storage\\_tuber\\_rot\\_of\\_sweetpotator04.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf)、[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/motogusarebyo\\_hatsubyorisuku\\_teigen\\_manial.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/motogusarebyo_hatsubyorisuku_teigen_manial.pdf)) をご覧ください。



鹿児島県  
サツマイモ基腐病防除  
対策マニュアル(第4版)  
令和6年3月改訂



鹿児島県  
さつまいも育苗の  
ポイント  
(令和4年12月)



農研機構  
サツマイモ基腐病の  
発生生態と防除対策  
(令和4年度版)



農研機構  
本圃におけるサツマイモ基腐病  
リスク低減マニュアル  
(令和7年3月)

## II. 野菜

### 1. キュウリ

#### (1) ベと病

##### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

##### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多  
発生ほ場率 80% (平年 63%)  
：やや高い

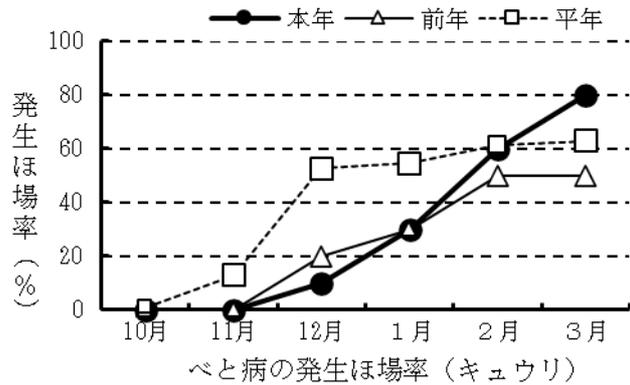
発生程度の高いほ場を認めた (+)

##### (イ) 気象予報

- 気温：高い (+)
- 降水量：平年並みか多い (+)

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウスの通風換気に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、ハウス外に持ち出して処分する。
- (ウ) 肥料切れや草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 多発すると防除が困難になるので、早めに防除する。
- (オ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。



#### (2) アザミウマ類

##### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや少

##### イ 予報の根拠

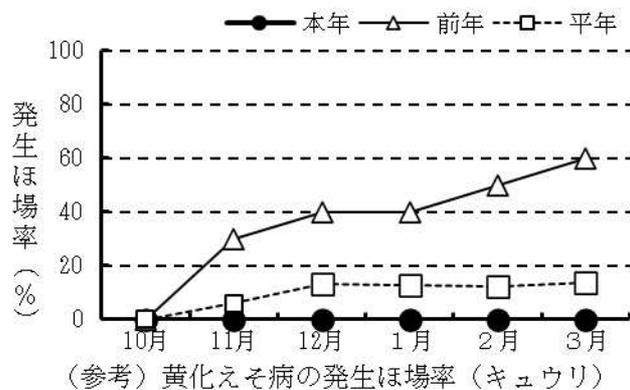
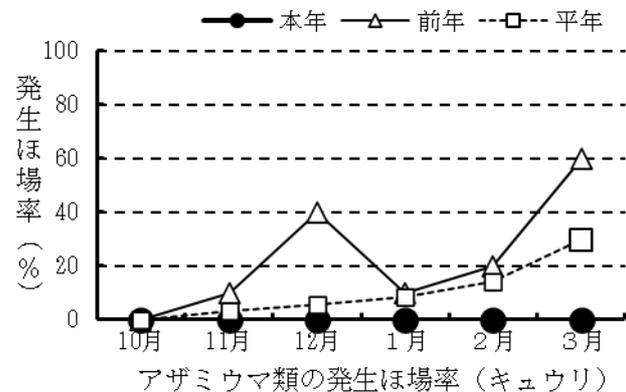
- (ア) 調査結果 発生量：少  
発生ほ場率 0% (平年 30%)  
：低い

##### (イ) 気象予報

- 気温：高い (+)

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (イ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。
- (ウ) アザミウマ類がハウス外へ飛び出さないよう、栽培終了まで防除する。また、栽培終了後は抜根し、植物が枯死するまで蒸し込む。



(3) コナジラミ類

ア 予報内容

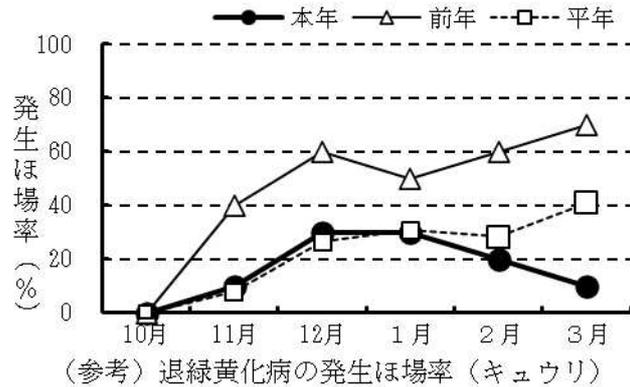
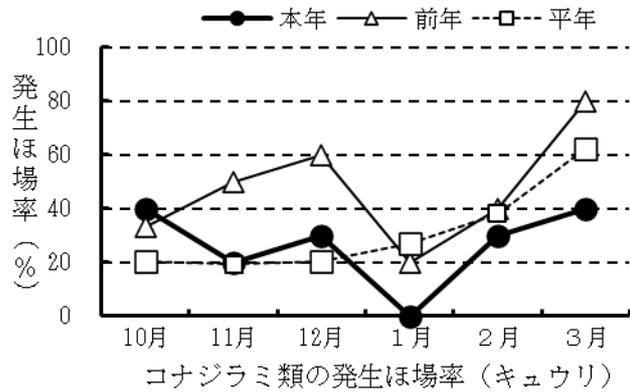
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：少  
発生ほ場 40% (平年 62%) : 低い
- (イ) 気象予報  
気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (イ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。
- (ウ) コナジラミ類がハウス外へ飛び出さないよう、栽培終了まで防除する。また、栽培終了後は抜根し、植物が枯死するまで蒸し込む。



2. トマト

(1) 灰色かび病

ア 予報内容

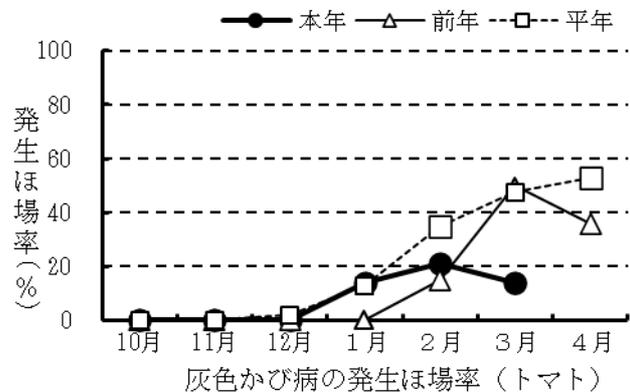
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少  
発生ほ場率 14% (平年 48%)  
: 低い  
発生程度の高いほ場を認めた (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウスの通風換気を十分に行い、過湿にならないよう努める。
- (イ) 果実部やへたの付近に付着する花卉は本病の発生源となるので、こまめに除去する。
- (ウ) 発病葉や発病果実は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (エ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。



(2) うどんこ病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

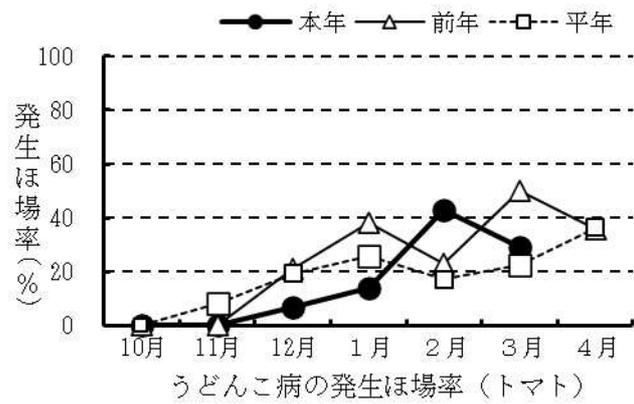
- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率 29% (平年 23%) : 並  
発生程度の高いほ場を認めた (+)

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (イ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。



(3) コナジラミ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

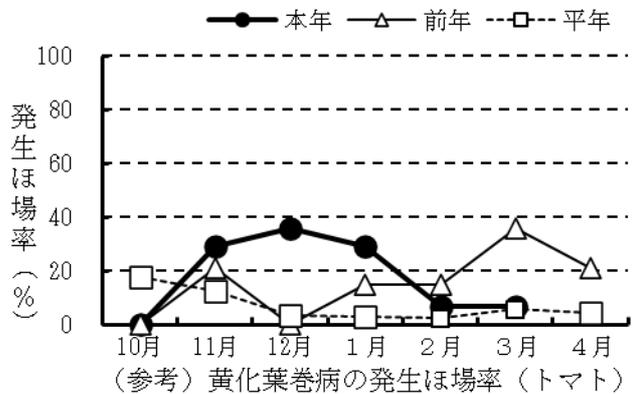
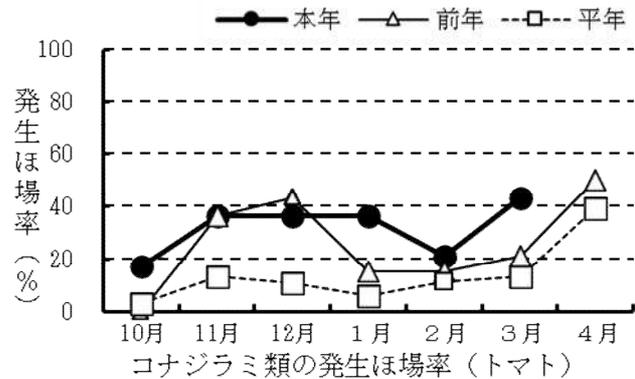
- (ア) 調査結果 発生量：多  
発生ほ場率 43% (平年 14%)  
：高い

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 黄化葉巻病 (TYLCV) を媒介する。黄色粘着トラップを設置し、発生状況を確認して適期防除に努める。
- (イ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。
- (ウ) 農薬によっては感受性が低下しているので、散布後は防除効果を確認する。(令和6年度技術情報第25号、令和6年12月26日付・右の二次元コード参照)
- (エ) 農薬によっては、マルハナバチに影響があるので選定に注意する。



### 3. ピーマン

#### (1) 斑点病

##### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

##### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少  
発生ほ場率 44% (平年 69%)  
：低い

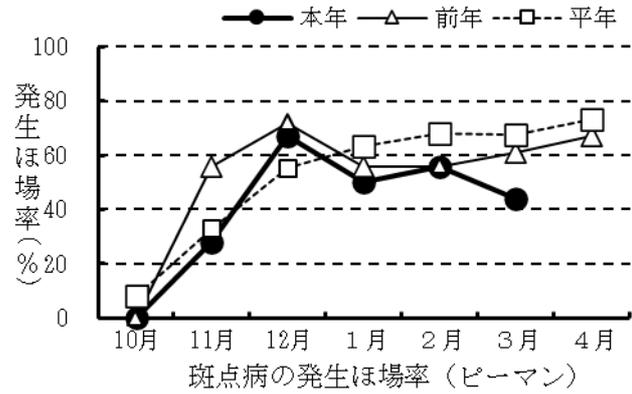
発生程度の高いほ場を認めた (+)

##### (イ) 気象予報

- 気温：高い (+)
- 降水量：平年並みか多い (+)

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (イ) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努める。
- (ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。



#### (2) うどんこ病

##### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

##### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多  
発生ほ場率 78% (平年 49%)  
：高い

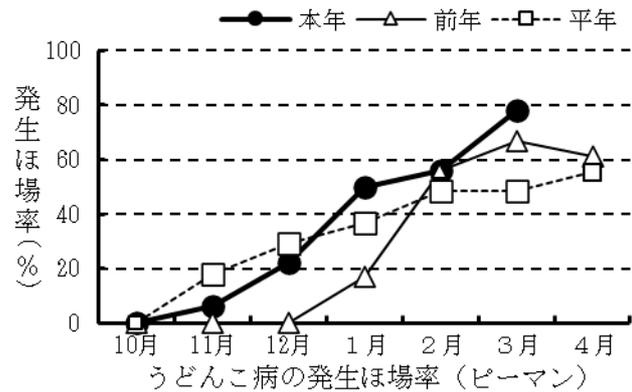
発生程度の高いほ場を認めた (+)

##### (イ) 気象予報

- 気温：高い (+)

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (イ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。



(3) アザミウマ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

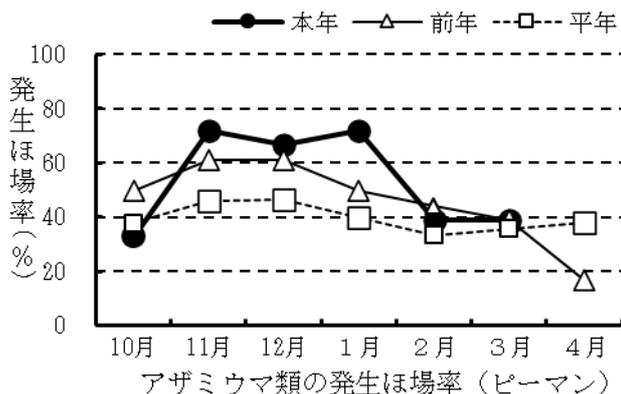
- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率 39%（平年 36%）：並  
発生程度の高いほ場を認めた（+）

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 花や新芽の中など薬液の付着しにくい場所に生息するので、散布は丁寧に行う。
- (イ) 天敵を放飼しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。また、多発したほ場では天敵の状況に応じてリセットを考慮した防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



(4) アブラムシ類

(令和7年度技術情報第32号、3月26日付け参照・右の二次元コード参照)



ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

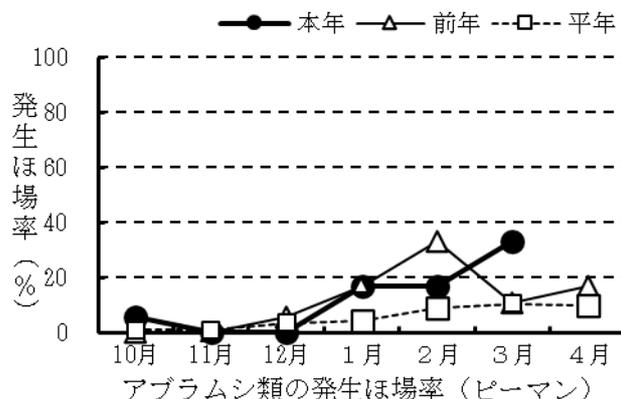
- (ア) 調査結果 発生量：多  
発生ほ場率 33%（平年 10%）：多

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ほ場をよく見回り、発生を認めたら早期防除を行う。
- (イ) 新芽や葉裏など、アブラムシ類が生息する場所に薬液が付着するよう、散布は丁寧に行う。
- (ウ) 天敵を放飼しているほ場では、天敵への影響を考慮した農薬を選定し、防除を行う。
- (エ) 農薬によっては感受性が低下しているので、散布後は防除効果を確認する。  
(令和7年度技術情報第33号、令和8年3月26日付・右の二次元コード参照)
- (オ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



#### 4. イチゴ

##### (1) アザミウマ類

###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや多

###### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 45% (平年 64%)

：やや低い

発生程度の高いほ場を認めた (+)

###### (イ) 気象予報

気温：高い (+)

###### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 粘着トラップを設置し、発生状況を把握して適期防除に努める。

(イ) 花や新芽の中など薬液の付着しにくい部位に生息するので、散布は丁寧に行う。

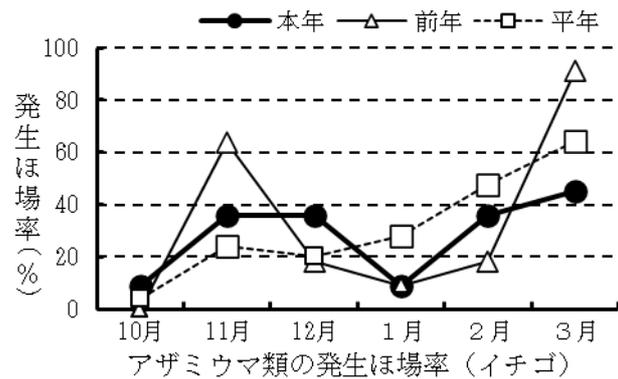
(ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。

(エ) ハダニ類の天敵を放飼したほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。

(オ) 農薬によっては感受性が低下しているので、散布後は防除効果を確認する。

(令和7年度技術情報第11号、令和7年7月31日付・右の二次元コード参照)

(カ) 農薬によっては、ミツバチに影響があるので選定に注意する。



##### (2) ハダニ類

(令和7年度技術情報第34号、3月27日付け参照・右の二次元コード参照)



###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

###### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

発生ほ場率 91% (平年 49%)

：高い

発生程度の高いほ場を認めた (+)

###### (イ) 気象予報

気温：高い (+)

###### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 天敵を放飼しているほ場では、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

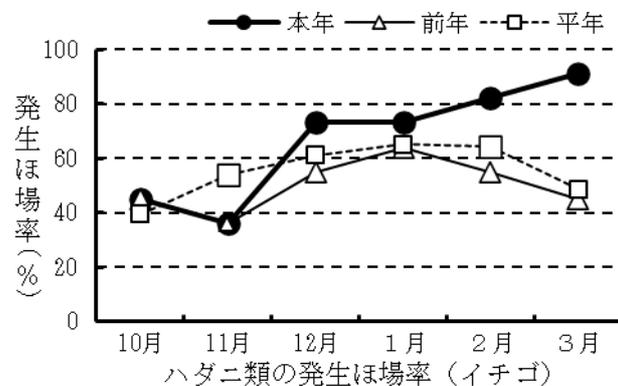
(イ) 農薬の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから葉裏に付着するよう散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。

(エ) 農薬によっては、感受性が低下しているので、散布後は防除効果を確認する。

(令和7年度技術情報第28号、令和8年2月18日付・右の二次元コード参照)

(オ) 農薬によっては、ミツバチに影響があるので選定に注意する。



5. エンドウ類

(1) うどんこ病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率 38% (平年 28%) : 並  
発生程度の高いほ場を認めた (+)

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

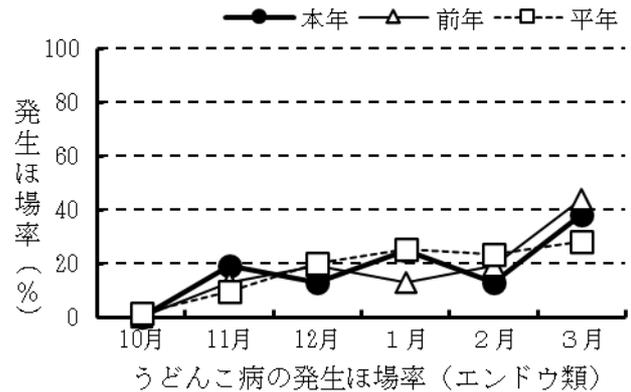
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) かん水不足や着莢負担等による草勢低下で発生しやすいため、適正な管理に努める。

(イ) 多発するとごま症の発生につながるため、初期防除に努め、下位葉の葉裏まで農薬が十分付着するように散布する。

(ウ) 既に発生しているほ場では5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。

(エ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) とのローテーション散布を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

発生ほ場率 94% (平年 74%)  
: やや高い

発生程度の高いほ場を認めた (+)

(イ) 気象予報

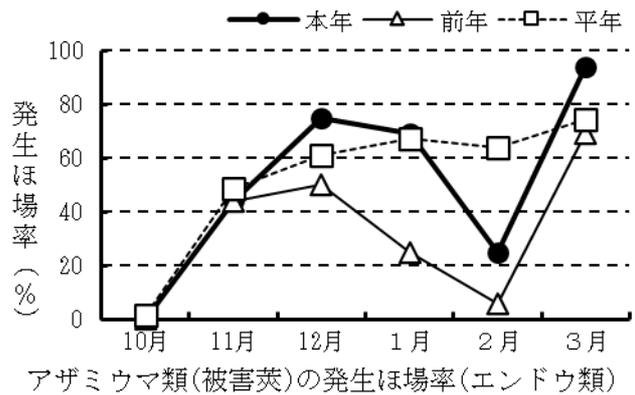
気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類は花の子房部分に産卵し、「白ぶくれ莢」となるので、若莢の被害や青色粘着トラップへの誘殺から発生状況を把握し、早期防除に努める。

(イ) 農薬の付着しにくい花卉の奥に寄生するので、丁寧な農薬散布に努める。

(ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布を行う。



6. バレイシヨ

(1) 疫病 (令和7年度技術情報第25号、12月25日付け参照・右の二次元コード参照)



ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 対象作型 春作

(ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

<県本土>

(ア) 調査結果 発生量：やや少  
発生ほ場率 0% (平年10%)  
：やや低い

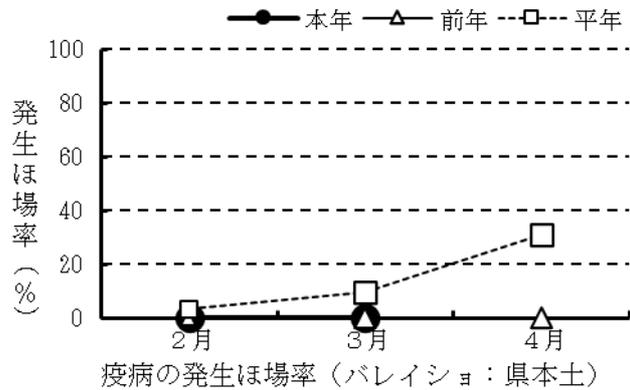
(イ) 気象予報

気温：高い (+)

降水量：平年並か多い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 未発生ほ場では、農薬を発生前に必ず散布し、予防に努める。その後は2週間間隔で散布する。発生が認められたら直ちに治療効果のある農薬の散布を行う。
- (イ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布を行う。
- (ウ) 収穫が遅れると被害拡大につながるため、適期収穫を行う。
- (エ) 発病株は次年度の伝染源となるため、ほ場外に持ち出し適正に処分する。



防除に関する今月の留意事項

1. 露地野菜類全般の残さ処理等について

- (1) 収穫後の残さは、菌核病や軟腐病など様々な病害虫の伝染源 (発生源) となるので、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分する。ほ場外への残さ持ち出しが困難なほ場では、複数回の耕耘により残さの分解を促す。
- (2) 菌核病が多発したほ場では、連作を避け、イネ科牧草等の輪作により菌密度の低下を図る。

### Ⅲ. 花き

#### 1. キク

##### (1) ハダニ類

###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 並

###### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少  
発生ほ場率 20%（平年 29%）

：やや低い

###### (イ) 気象予報

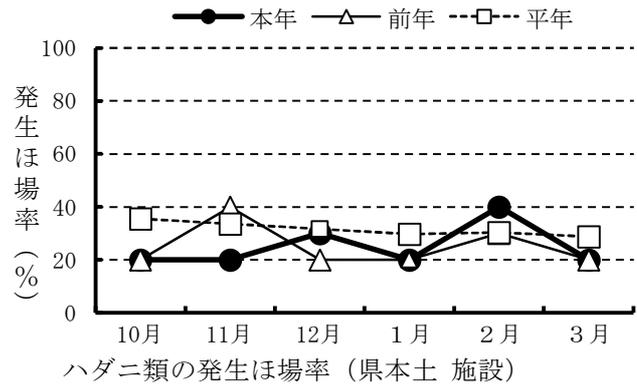
気温：高い（+）

###### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生する機会が多いので、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 農薬は葉裏までよく付着するように散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布を行う。



##### (2) アザミウマ類

###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 やや少

###### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：少

発生ほ場率 10%（平年 29%）

：低い

###### (イ) 気象予報

気温：高い（+）

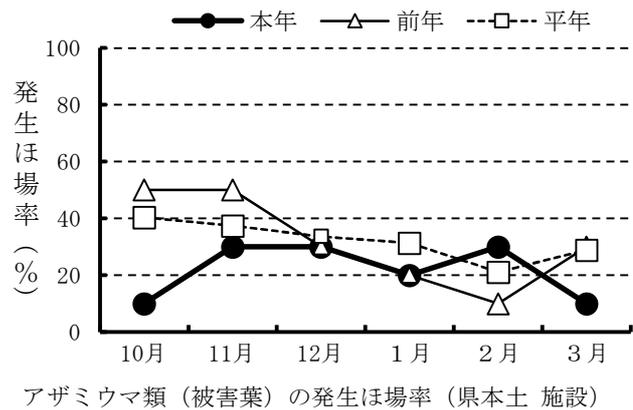
###### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類の発生動向を把握するには、出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。なお、クロゲハナアザミウマの誘引効率はやや低いと思われる。

(イ) クロゲハナアザミウマの発生が認められる場合、本種は主に中下位葉に寄生しているため、農薬は中下位葉の葉裏までよく付着するように散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) アザミウマ類はキクえそ病（TSWV）、キク茎えそ病（CSNV）を媒介するので、ほ場への侵入防止と早期発見及び早期防除に努める。



#### IV. 果 樹

##### 1. カンキツ

###### (1) そうか病

###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

###### (イ) 発生量

県本土・熊毛地域 やや多

奄美地域 並

###### イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果(旧葉) 発生量：並

発生ほ場率 9% (平年 4%) : 並

発病葉率 0.1% (平年 0.1%) : 並

###### (イ) 気象予報

降水量：平年並か多い(+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果(旧葉) 発生量：並

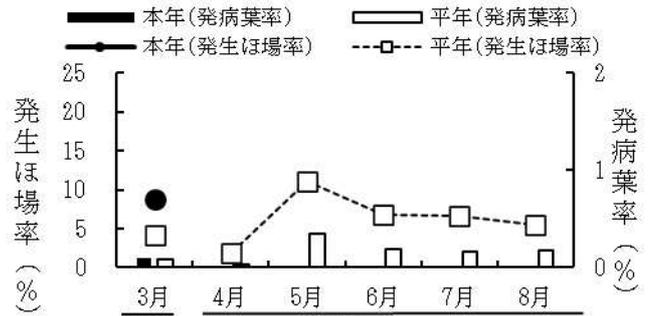
発生ほ場率 0% (平年 0%) : 並

発病葉率 0% (平年 0%) : 並

###### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 果実への感染時期である落花期の防除は適期を逸ないように注意する。

(イ) 開花期以降のデランフロアブルとマシン油乳剤の近接散布は薬害を生じる恐れがあるので、散布間隔は30日以上あける。



そうか病の発生ほ場率と発病葉率  
(県本土・熊毛)

###### (2) かいよう病

###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

###### (イ) 発生量

県本土・熊毛地域 多

奄美地域 やや少

###### イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果(旧葉) 発生量：多

発生ほ場率 38% (平年 26%) : やや高い

発病葉率 3.7% (平年 0.8%) : 高い

発生程度の高いほ場を認めた(+)

###### (イ) 気象予報

降水量：平年並みか多い(+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果(旧葉) 発生量：やや少

発生ほ場率 0% (平年 4%) : やや低い

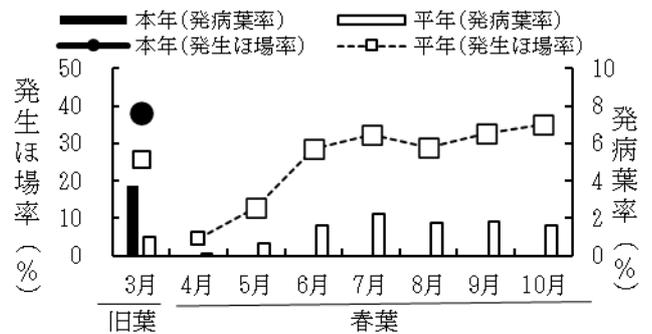
発病葉率 0% (平年 0.03%) : 並

###### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 春葉が硬化するまで、気孔等からの感染を予防散布により抑える。

(イ) 銅水和剤の使用にあたっては、薬害を軽減するために炭酸カルシウム剤を必ず加用する。

(ウ) 強風雨等による葉や果実への傷口発生を防ぐため、防風網の設置や防風樹の管理に努める。



かいよう病の発生ほ場率と発病葉率  
(県本土・熊毛)

(3) ミカンハダニ

(令和7年度技術情報第35号、3月27日付け参照・右の二次元コード参照)



ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 多

奄美地域 多

イ 予報の根拠<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果(旧葉) 発生量: 多

発生ほ場率 32% (平年 13%) : 高い

寄生葉率 1.3% (平年 1.7%) : 並

(イ) 気象予報

気温: 高い(+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果(旧葉) 発生量: 多

発生ほ場率 43% (平年 10%) : 高い

寄生葉率 5.3% (平年 0.9%) : 高い

(イ) 気象予報

気温: 高い(+)

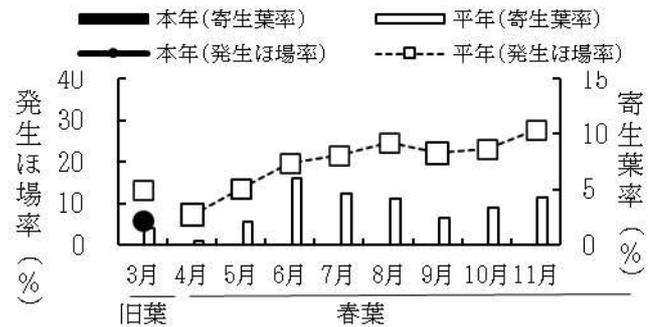
降水量: 少ない(+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 1葉当たり雌成虫数0.5~1.0頭(寄生葉率で30~40%)を目安に防除する。

(イ) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、春期~夏期にかけては、マシン油乳剤(97%)を主体とした防除を行う。

(ウ) 開花期以降のデランフロアブルとマシン油乳剤の近接散布は薬害を生じる恐れがあるので、散布間隔は30日以上あける。



ミカンハダニの発生ほ場率と寄生葉率  
(県本土・熊毛)



(2) カンザワハダニ

(令和7年度技術情報第29号、3月6日付け参照・右の二次元コード参照)



ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

発生ほ場率 63% (平年 45%)

: 高い

寄生葉率 6.1% (平年 2.4%) : 高い

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

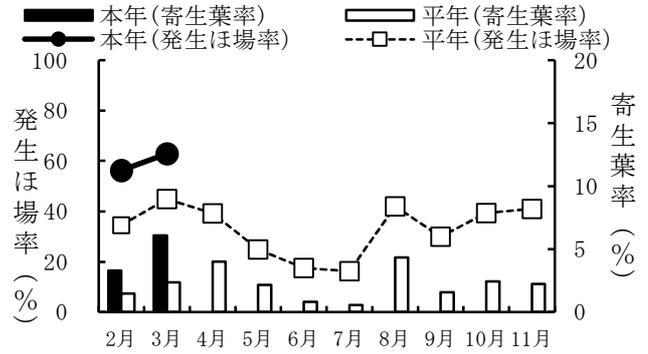
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 摘採後発生が多い場合は、整枝後早めに防除を行う。

(イ) 本種の全生育ステージに効果の高い農薬を用いて、裾部・葉裏にも十分にかかるよう散布する。

(ウ) 防除を行う場合は、天敵に影響の少ない農薬を使用する。

(エ) 農薬は、使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散を防止する。



カンザワハダニの発生ほ場率と寄生葉率

## 農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。  
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋等）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. 散布時には農薬がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。
6. クロルピクリン剤は、住宅地及び畜舎に隣接するほ場や、土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。
7. 毒性が強い農薬は、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬及び使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

### 「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等に基づいた総合評価。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（＋）、（－）は、発生量の増加、減少要因を示す。
- 気象予報は、向こう1か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去10年間の平均値を使用。